

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900129	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	社会福祉法人 清流会		
事業所名	高松山グリーンホーム		
所在地	(〒243-0038) 神奈川県厚木市愛名1170-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者についてはご家族様を含め、安心した生活が送れるよう日々努めています。コロナ禍で職員の不安やストレスは常にありますが、やりがいを感じることで果敢に業務に携わっています。現状では運営推進会議等も開催されず、地域との交流という点では出来ないこともありますが、今まで築いてきた信頼関係は継続していると思います。外出・面会制限など、入居者のストレスも少なくありません。新型コロナウイルス感染症を初めとして感染予防ということを常に念頭に置き、今、自分たちが出来ることを、出来る限り行っていきたく思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和3年12月7日	評価機関 評価決定日	令和4年2月20日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 小田急小田原線、本厚木駅の厚木バスセンターから20分、もしくは愛甲石田駅北口からは13分のバス便を利用し、最寄りの宮地バス停から徒歩3分ほどの山間の住宅地に位置している。ホームの西側には事業所名の由来となった高松山が望め、自然に恵まれた環境がある。法人は特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅、2つのグループホームを地域の高齢者福祉の拠点として運営している。
【地域に根差した施設】 法人理念「あなたの安心のために」は、地域住民の安心のための施設として各事業所があるという意味もあり、開所から職員、利用者も地域の一員として地域行事や地域活動に参加をして、地域の方とのふれあいを大切にしてきた。現在は新型コロナの影響で様々な活動が中断しているが、自治会の年末清掃に参加をしたり、愛名ミニデイサービスで行う七夕やクリスマス会へ招待を受けて一緒に楽しんでいる。2か月ごとにあった保育園との交流も現在は中断しているが、今年の敬老の日には保育園児が描いた絵のプレゼントがあり、ホームのリビングの壁を彩っている。
【レクリエーションの充実】 コロナ禍のため、外出や面会などが自由にできない為、できるだけ利用者がストレスを溜めないで日々の生活が送れるように、ホーム内で行うレクリエーションを工夫している。毎月行っている往診医による臨床絵画もその一環で、個々の利用者が自由に絵をかき、出来上がった絵をリビングに飾り楽しんでいる。夏には法人主催の花火大会を楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高松山グリーンホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	高松山グリーンホーム
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念としては『あなたの安心のために』とし、ご利用者・ご家族、地域、職員それぞれが安心して生活、働くことが出来るように実践しています。	法人理念「あなたの安心のために」は、法人が運営する各事業所は利用者、その家族、またそこで働く職員、それに加え地域住民の安心のために存在すると謳っている。毎年1月にホームの1年間の振り返りを行い、次年度に向けて重点目標を設定している。今年度は「安全・安心な環境造りと感染症対策の徹底」、「品格の向上と快適な職場作り」、「認知症の理解とケアの実践」、「地域包括ケアの推進と連携」を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防対策のため面会制限や運営推進会議も中止している状況ですが、資料等の配布は継続しています。挨拶や情報交換もしており、地域の一員として認めていただけていると思います。	愛名自治会に加入をして回覧板で情報を得ている。高齢化の進んでいる地域の事情を鑑み、開設当初から地域に根差した事業所を目指し、自治会の行事などに積極的に参加をしている。新型コロナウイルス禍の中、7月に屋外で開催された愛名ミニデイサービスで地域の高齢者と一緒に七夕飾りの短冊を創ったり、クリスマス会に招待を受けたりしている。自治会恒例の年末の美化清掃にも利用者は職員と一緒に参加をして、地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でなかなか地域に向けての理解や支援方法が確立出来ていないのが現状です。積極的に関わりを持ち、頼れる存在となれるよう努力したいと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は中止となっており、現在は書類のみを委員に送付させていただいています。2ヶ月に1回、事業所の取り組みや入居者状況を報告し、確認していただいています。	運営推進会議は2か月ごとに、自治会長、民生委員をはじめ地域の高齢者福祉に関係する方7名、担当エリアの地域包括支援センターに加え、隣接する地域包括支援センター職員など多彩なメンバーで開催していた。現在はコロナ禍のため、書面開催とし、事業所の運営状況や活動報告を参加メンバーに送っている。メンバーには意見や提案をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居の見学・相談等で地域包括支援センターとの連絡はしています。事故報告等では、事故内容や再発防止策を厚木市介護保険課に報告しています。	厚木市の高齢者対策の施策に基づき平成23年の開所から市の介護保険課とは連携をしている。市のケアプラン点検事業では利用者ごとの自立支援につながるケアプランについて相談している。地域包括支援センターとは空き情報や、地域の認知症高齢者の受け入等で連携を取っている。将来的には地域の高齢化が進んでいることから「認知症カフェ」の取組みも視野に入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針について全職員が研修に参加しています。身体拘束について、改めて職員一人ひとりが再確認し、理解を深めています。	法人の事故防止委員会の中で身体拘束適正化、虐待防止を並行して検討している。法人内の各事業所の具体的事例を取り上げ、改善に向けた取組みを報告し、各委員が活発な意見交換をしている。当事業所からは管理者と職員1名が委員として参加している。議事録は回覧して職員間で共有している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての意識調査(一斉点検)を12月に実施予定、令和4年2月に法人内研修があり、全職員が参加予定です。常日頃から絶対にあってはならないことと職員も理解しています。また、ポスターを掲示しています。	法人研修で年1回虐待についてセルフチェックをして、結果を職員にフィードバックしている。虐待の定義を確認し、互いの言動や不適切なケアについて職員間で注意し合うことや話し合いの場を持つこと、学びの必要性などを今後職員会議などで伝えていく予定である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修などには参加ができていませんが、必要になった時の連絡先等を記しているパンフレット等は取り揃えており、職員が確認出来るようになっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、出来るだけわかりやすく丁寧に説明することを心掛けています。入居前はご本人だけでなく、ご家族の心配や不安も大きいため、できるだけ心配・不安を解消し入居されるよう対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置し、日ごろから意見・要望を取り入れられるようにしています。苦情に関する問い合わせも、相談窓口を設置しています。また、ご家族への連絡も行っています。	管理者は、入居時から家族に意見や要望はいつでも直接話して欲しいと伝えている。コロナ禍のため、面会は法人の方針で窓越し面会としていたが、声が聞きづらいことや、家族だけの水入らずの時間が持てないと考え、現在、玄関を開放して予約制で少人数、短時間の面会を行っている。家族には法人の便りに近況の写真を添えたり、電話で報告している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月法人内の運営会議に参加し、職員状況や提案事項なども合わせて、事業所報告を実施しています。そして決議事項等を会議録と合わせて職員は確認しています。	法人理事長と管理職クラスの運営会議があるが、ホームとしてのケア会議は新型コロナの影響で中断している。運営会議の内容や必要な議題は、連絡ノートで共有し、意見がある場合はそこに書いているが、意見交換の場にはなっていない。管理者との個別面談制度はないが、管理者はできるだけ職員と話をする機会を作り、小さな変化なども見逃さないで声をかけ話をしている。職員の意見は日々のケアやイベントの企画などに反映させている。	職員の意見を聞く機会として、以前行っていたケア会議のように職員が直接意見交換をする場を設けることが望まれます。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、人事考課制度を用いて、職員の能力や勤務態度、業務に対する貢献度や業績を一定の基準で評価し、向上心を持って働けるよう努めています。	年末に次年度に向け人事考課を兼ねた面接を行っている。1次（計画作成担当者との面接）、2次（管理者による1次の書類評価）、3次（理事長面談）を行い、キャリアパスや異動についての希望なども話している。産休、育休、時短制度、再雇用制度などが整備されている。また、勤続年数に応じてリフレッシュ休暇が取得できる。神奈川県高齢者福祉施設協議会に加入しており、そこからも永年勤続のお祝い金などが出る。正社員が多く、福利厚生面が充実した働きやすい環境が整備されている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修がある場合、全職員に参加を働きかけています。また、勤務等で参加出来ない職員には、その時に使用した資料などを確認していただき、内容を共有出来るよう努めています。	法人内研修や外部研修の受講を推奨しており、勤務時間内の受講とし、費用を負担している。法人内に各種委員会があり、各事業所から委員を選出して従業者の資質向上に法人を挙げて努めている。また、キャリアパス制度があり、各職員のレベルに応じた目標設定や必要資格の取得が定められている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	神奈川県高齢者福祉施設協議会の会員となっており、連絡会や研修等に参加できるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学・相談時に不安や要望などを確認し、把握した上で入居申し込みや入居前面談を行い、入居環境を整えるようにしています。 ご本人、ご家族が安心して入居できるよう、ケアマネとも情報共有し対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時からご家族の心配事をくみ取れるよう傾聴し、説明を実施しています。そして、面談時にもご意向確認を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初めは、ご本人、ご家族も不安であると思います。状況を記録し、職員間で共有し、ご家族とは細かに連絡を差し上げるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活を重視して、自分で出来ることを最大限に発揮できるよう、楽しみながら生活していただけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、ご本人の状況を説明・報告をしています。そして、心身状況で対応が必要な場合は、職員とご家族が共に協力し、支援するよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会に関しては事前の予約制としマスク着用、手指消毒、玄関先を開放した状態や屋外、少人数、短時間など制限した状態で面会して頂いています。	近隣地域からの入居が多く、周辺の風景、特に高松山などは馴染みの場所になっている。散歩や外気浴で外に出た時に会う地域の方ほとんどが顔見知りで、挨拶を交わしたり、世間話をしている。地域のミニデイに利用者が参加していることから、地域の方もホームが馴染みの場所になっている。新型コロナ前はホームのバーベキュー大会に家族とともに友人の参加もあり、一緒に楽しんでいた。配偶者の葬儀や法事に参加をしたり、孫の結婚式に参加予定の方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、また、ユニット間でも交流しやすいよう職員が状況を把握して、関わりができるような声掛けやレクリエーションを実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約書終了後も相談等があれば対応するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前面談時に聴取して把握するように努めています。	入浴や散歩など職員と1対1になった時に本音が出ることもある。散歩時に右膝の痛みを訴えた方の言葉から受診に繋がった。発語の困難な方は表情や反応から汲み取るが、職員は利用者との日常の何気ないふれあいや会話から思いをくみ取ることもある。汲み取った思いや意向はタブレットの経過記録に入れている。欲しい物、食べたい物は申し送りノートに記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談時に聴取して把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	慣れ親しんだ生活様式を取り入れながら、穏やかに生活できるよう努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、課題や提案事項をチームで共有し、介護計画に反映し、作成しています。	介護計画作成は管理者、計画作成担当者、看護師、家族が参加して担当者会議を行っている。本人の意向を確認しているほか、家族に問い合わせることもある。介護計画の職員への周知や意見のある場合は申し送りノートで行っている。通常長期目標2年、短期目標を1年としている。毎月計画作成担当者がモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の身体的・精神的状況や様子・状態、生活状況を介護記録として残し、その情報も含めカンファレンスを行い日々のケアを実践しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や居宅療養管理指導、福祉用具の活用など、必要なサービスも相談があればご紹介できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出する機会が少ないですが、安全面に配慮しての地域行事には参加し楽しんでもらえるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望にお任せしています。受診の際は、看護師より受診記録として主治医宛に連絡事項を記載してお渡ししています。	往診は個人契約で、数名の方が受けている。その他の方は家族対応で通院している。予防接種は法人の産業医が訪れている。急変時は、管理者が一報を受け、往診医につなぎ、判断を仰いだり、往診医と契約していない方については、直接救急搬送の依頼をしている。訪問歯科医は1名の方が個別契約で治療を受けているが、その他の方は家族対応で通院治療を受けている。常勤の看護師に加え、非常勤の看護師を配置して利用者の健康管理をしている。	通院対応による家族の負担軽減も鑑み、協力医療機関からの往診や、訪問歯科の整備など今一度見直されることを期待します。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パソコンやタブレットでの記録の他に、介護職員と医師、看護師との間で情報共有出来るよう連絡ノートに記録をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	円滑に対応できるよう、協力医療機関等と情報を共有しています。その情報も必要最小限として、もし相談などがある場合は病院関係者と密に連絡調整するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、見学時や契約時にも説明をさせていただいています。特養や療養型医療機関などの移行に関しての相談も行っています。	重度化した際は法人運営の系列の特別養護老人ホームに移り住む方が多い。グループホームは生活の場で、重度化した際は医療体制や、設備も整っている特別養護老人ホームに移るとの法人の考えから、重度化した場合の対応や看取りの指針はない。重度化対応や看取りの研修は法人としてあるが、受講はしていない。将来的には看取りを考慮していることや、今までも急変して看取りにつながった方は複数名いる。そのような時は、看取りの経験のある職員のアドバイスがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて事故発生時の対応など全職員が参加しています。また、フローチャートにより適切に対応出来るようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練（通報・消火・避難訓練）を実施しています。考えて行動するよりも自然に体が動くよう訓練を重ねています。	今年度は7月に夜間想定避難訓練を行っている。2月にも訓練を予定している。訓練に消防署の立ち合いはないが、設備点検などの立ち入り検査を11月に受けている。また、消防職員から夜間の2人体制時の避難のアドバイスなども受けている。建物の東側が土砂災害の危険地域に指定されているため、反対側への避難を常に考慮している。備蓄品は法人管理で、缶詰、米などは事業所内にローリングストックしている。カセットコンロなどの熱源の用意もある。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に相手に対する敬意と感謝を持ち、言葉遣いや立ち振る舞いに気を配るよう全職員が意識するよう努めています。	個人情報保護については、個人情報の取り扱いや管理についてセルフチェックを行い、法人で11月に情報管理などについて話し合いを行っている。事務所内のパソコンは使用者を限定してパスワードをかけている。タブレットはユニットに1台ずつ、パスワードで2段階認証をしている。USBメモリーは管理者のみの使用で管理も管理者が行い、個人情報を含む書類は施錠できるキャビネットに保管している。トイレ誘導の際の声かけは職員によって差がある為、利用者の羞恥心への配慮をするようにと管理者は指導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの気持ちや考え方を尊重し、表出していただけるような状況となるよう心掛けています。職員が決定するのではなく、入居者本位となるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月間予定や週間・一日の予定はありますが、状況や状態により、無理なことは強制することなく自分のペースで生活して頂けるよう臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服を着まわさない、季節にあった衣類を着用していただく等、見守りや声掛け、準備を行っています。衣替えも一緒に行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった食事形態で提供し、美味しく召し上がっていただけるようにしています。片付け等の役割をお願いすることもあります。	食事は法人の管理栄養士がメニューを決め、魚以外は、食材を発注している。配達された食材を職員が調理している。朝食は夜勤職員が調理、2階は以前系列の特別養護老人ホームの厨房にいた職員が専任で調理している。誕生日や行事食は特にないが、毎週水曜日は特別メニューが用意されている。出前やテイクアウトの利用は、1階の利用者の様々な食形態から取り入れが難しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのとれた献立を提供しています。食思不良時は、常識にとらわれず食べたいもの、食べられるものを提供し、栄養管理に繋がっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は、肺炎や心疾患等の疾病につながる危険もあるため、毎食後、必ず歯磨きやうがいを行っています。自身で出来ない方は、職員が口腔ケアを実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のあった排泄方法を実践しています。尿意・便意のない方も定時・随時で誘導を行っています。	最近まで布パンツを履き、自立してトイレで排泄していた方がいるが、失禁が増えてきている。その他の方も少しずつ排泄の失敗が多くなっている。トイレに座ることで排便ができる方は立位が取れない場合も二人介助をしている。排泄用品などはプライバシー保護の観点から目に触れない場所に保管し、必要時のみ取り出している。トイレの掃除、消毒は感染症対策と清潔の保持から念入りに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師が連携し、排便コントロールを実施しています。介護職員は看護師指示による下剤管理表を把握して対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	菖蒲湯やゆず湯など季節の入浴方法も取り入れながら、入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。基本的な入浴日時は設定していますが、希望により柔軟に対応しています。	入浴は週2回、午前中に入っている。入浴を好まない方には、「洋服を着替えましょう」と誘導し、着替えている途中で「ついでにお風呂に入りませんか」と誘うと、「そうね、ついでだから入ろうか」となる場合が多い。同性介助の対応もしている。リフト浴の付いた浴槽は1人ずつ湯を交換している。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯を楽しんでいる。脱衣場にはエアコンを備え、ヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度の調整や、週1回は必ずリネン交換を行い、安眠できる環境を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法を把握し、ご本人がきちんと服用しやすい性状を主治医と相談し対応しています。服薬に関して変更などがある場合には、記録にきちんと残し職員間で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ、食器洗いなど入居者それぞれが出来ることを行ってもらっています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	コロナ禍でなかなか外出する機会が少ない状況ですが、少人数で施設近隣を散歩したり、ドライブなどを実施しています。	季節や天気の良い日には、近くを車いすの方も一緒に散歩をしたり、庭のプランターで季節ごとに栽培している野菜や花を眺めながら外気浴を楽しんでいる。花見はドライブで飯山あやめの里に出かけた。新年の初詣も車で出かける予定にしている。帰宅願望が強く、介護計画に在宅に戻ることも視野に入れ、毎週自宅に帰って過ごしている方も、現在は新型コロナのために中断している。現在家族との外出は通院のみになっている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望により、預り金として個々に事務所管理としてお預かりしています。その中から紙オムツ類や買い物、散髪などができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から電話があればお繋ぎしています。現在1名の方が携帯電話を持参されており、本人管理、居室のみで使用されています。また、ご家族や友人から宅配や手紙・ハガキが届くこともあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が描いた絵や行事の写真、保育園児からいただいた壁画などを掲載し、楽しんで頂いています。	大きな窓のリビングには床暖房が施され、天気の良い日は温かい日差しが差し込んでいる。以前から交流のある保育園から敬老の日にプレゼントされた貼り絵や、利用者が臨床絵画で描いた絵が楽しい雰囲気を醸し出している。リビングに空気清浄機付き加湿器があり、冬場はさらに加湿器を増設して乾燥を防いでおり、感染症対策にもなっている。日中はリビングで談笑する方が多く、会話を楽しんだり、筍の季節には皮むきなどの調理の下ごしらえを手伝うなど、食事の準備をして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされる方が多いですが、食席にも配慮し一人ひとりが過ごしやすい環境になるよう努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれが使い慣れた馴染みのものや好きなものを持参して頂くようお願いしています。施設での生活がなるべく自宅での生活に近い状態になるよう努めています。	居室には洗面台、エアコン、照明、クローゼット、介護ベッド、寝具、カーテンが備え付けられている。利用者は馴染みの家具や時計、テレビなどの生活用品、冬場に使用する毛布を持ち込んでいる。仏壇を持参する方もいる。加湿器も個人で置いている。利用者は食後に居室で横になったり、テレビを見たりしてくつろいでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒・転落のリスクのある入居者に対しては離床センサーマットを活用するなど安全に努めています。また、場所の表記や目印、障害となるものをなるべく排除し環境を整えるように努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 高松山グリーンホーム

作成日 令和4年2月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員の意見を聞く機会として、以前行っていたケア会議のように職員が直接意見交換をする場を設けることが望まれる。	ケア会議の実施と意見交換・情報共有の充実を図る	新型コロナウイルスの感染拡大に付き、ケア会議を中断しているが、感染が落ち着いてきた時点でケア会議を再開する。それまでの間は引き続き連絡ノート等を活用し情報共有に努めていく。また、常日頃から気候に相談し合えるような職場環境になるよう職員間でコミュニケーションをとっていく。	令和4年3月1日～ 令和5年3月31日
2	30	通院対応による家族の負担軽減も鑑み、協力医療機関からの往診や、訪問歯科の整備など今一度見直しをする。	受診に対する入居者・ご家族の負担軽減を図る	入居者の身体状況やご家族の付き添い受診が困難になった場合には往診医への変更などご家族と相談しながら柔軟に対応していく。訪問歯科に関しては必要に応じて厚木歯科医師会に協力を依頼し、訪問歯科医を紹介して頂き治療をしていく。	令和4年3月1日～ 令和5年3月31日
3					
4					